

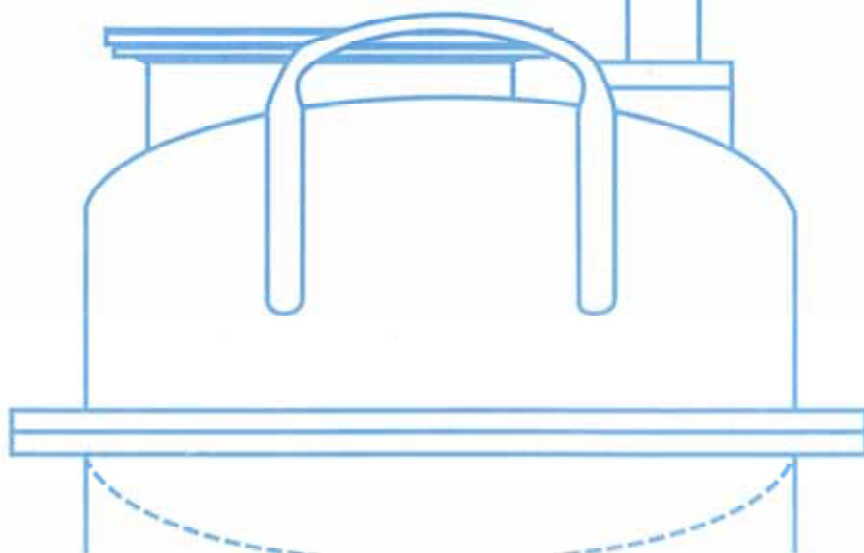
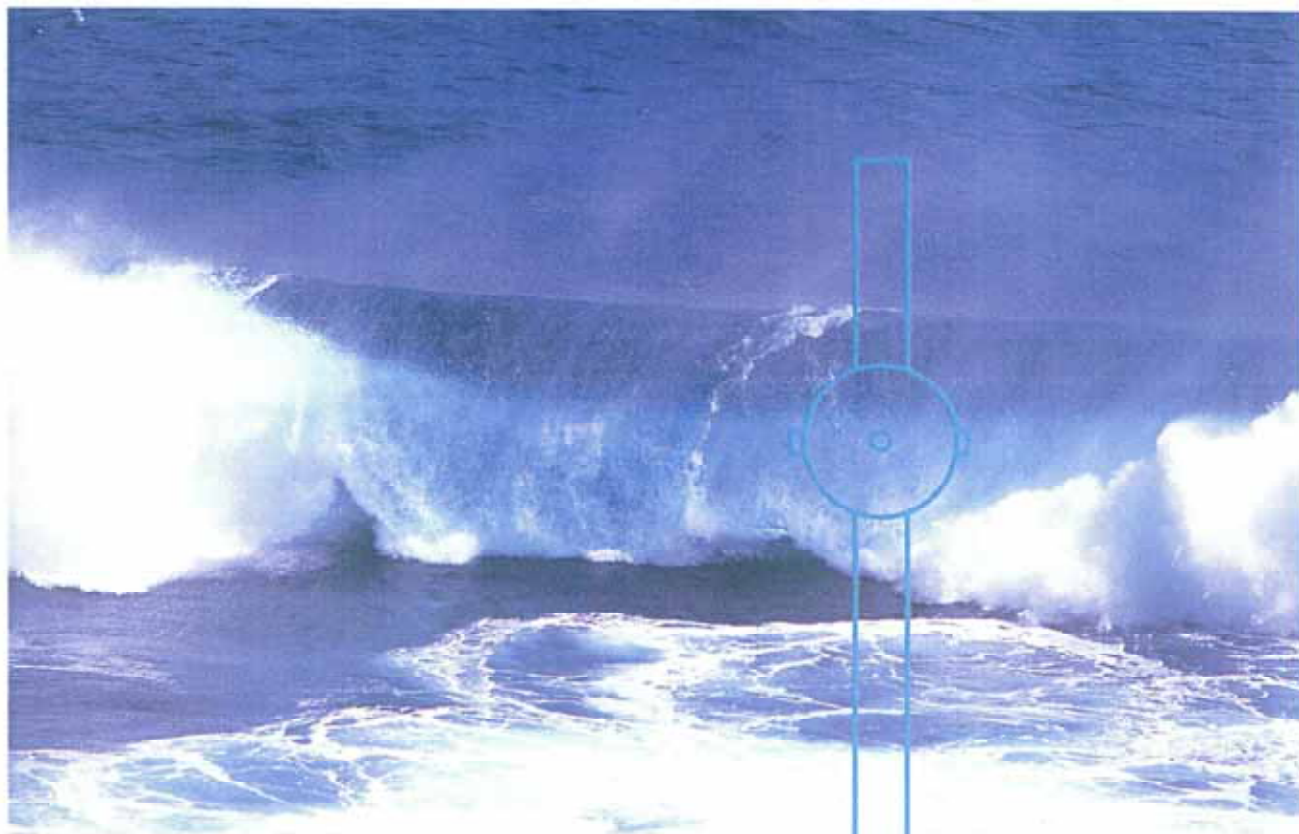
多機能型海象観測装置

DL-2型

波高・波向・流向流速 3機能搭載

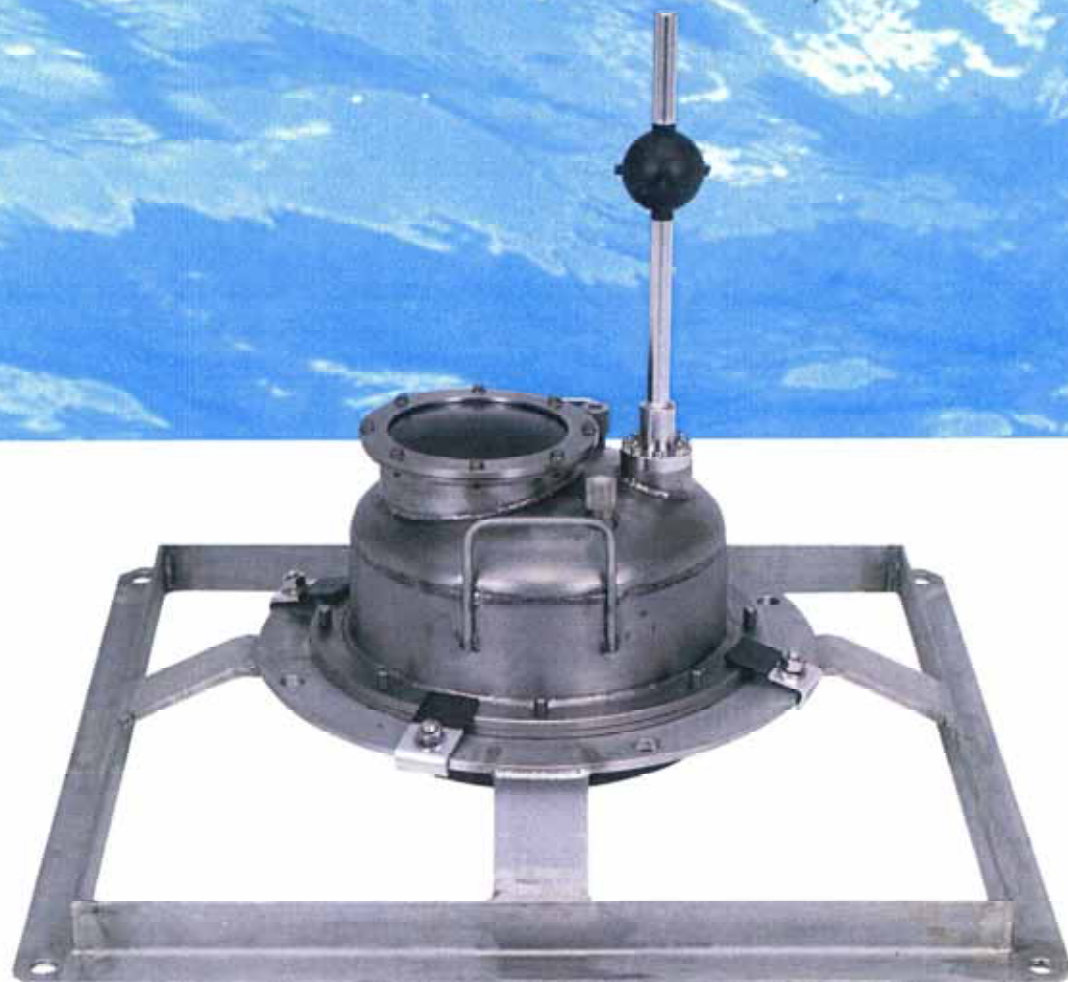
ウェーブ・オブザーバー

Waves Observer



波高・波向・流向流速観測の

3機能を搭載した、 海象ワークステーション



特 長

1台で波高・波向・流向流速の観測が可能です。波高処理・波向処理に加えて、方向スペクトル演算処理ソフト等の提供が可能です。

観測に当たって、センサーを選択でき消費電力もその割合で減少します。

サンプリングタイムは0.1・0.2・0.5・1.0秒、観測時間は1～100分、観測間隔は連続及び2～999分、に自由に選択できます。

超音波信号は温度補正を行うことにより精度を高め水圧センサーと有機的に組み合わせデータ処理するため、エラーが少なく、有効な観測結果が得られます。

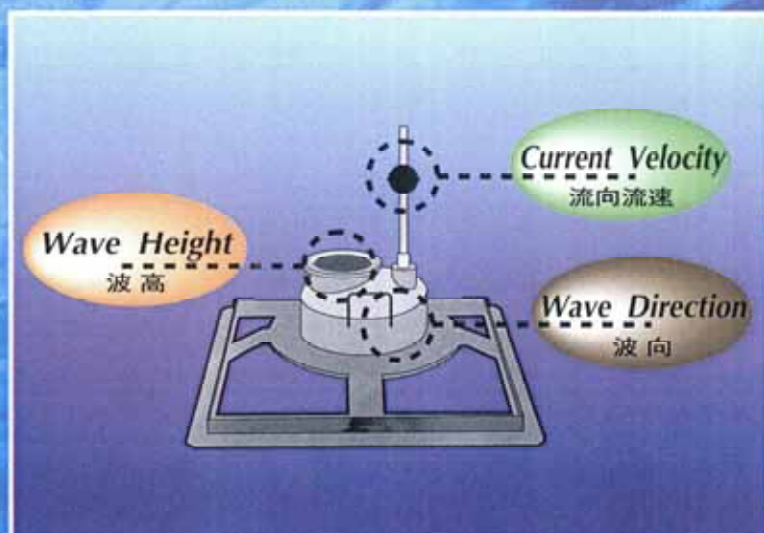
LEDの点滅で水中でのCPUの動作確認、及び電池消耗程度の概略値が判ります。

電源にシール型電池を使用していますのでランニングコストが低減でき、また、リチウム電池を使用することにより長時間の観測が可能です。

外筒は、チタン製で軽量かつ電食等の心配はありません。

《Waves Observer》

ウェーブ・オブザーバー



海象観測器機としての応用

波高観測

超音波式・水圧式の長所を活かし、短所を補うことで理想的な波高観測が可能となりました。

波向観測

超音波式・水圧式波高計と、電磁流向流速計との同時観測で波向観測ができます。

潮位観測

取得データを処理することで海洋での潮位を観測できます。

流向流速観測

例えば、離岸堤付近の沿岸流・河口付近の沿岸流等が波高観測と同時に得られます。

長周期波・湾振動観測

サンプリング速度を遅くし、最も経済的な方法で長周期波の観測ができ、湾内に複数設置することで湾振動等の観測も可能です。

静穏度観測※

防波堤の外では水圧式、内側では超音波式を主に活用することで効果的に湾内の静穏度を調査できます。

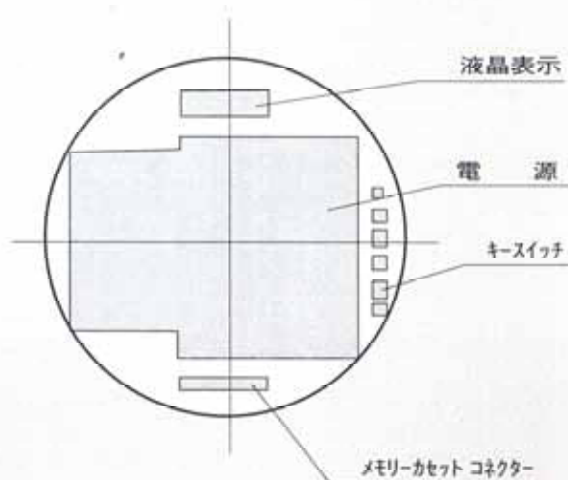
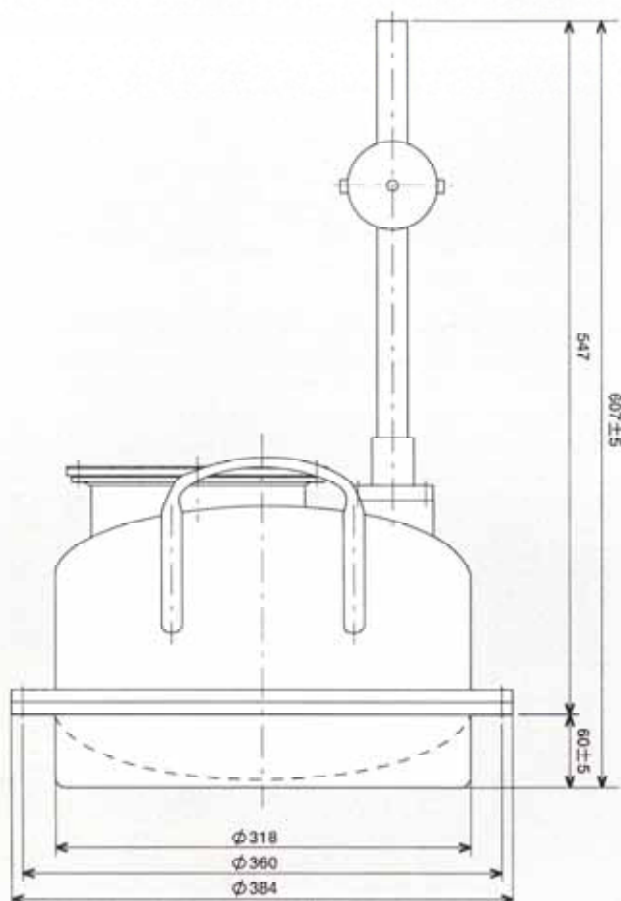
海底沈下量観測※

1台を基準部として確定した既設位置に、1台を測定点に設置し各々のデータを比較することで、沈下量を観測することができます。

※はオプションのため仕様の変更が必要です。

多機能型海象観測装置《Waves Observer》仕様

項 目	超音波式波高計	水圧式波高計	電磁流向流速計
測定範囲	0~20m	0~20m	±1.25/2.5m
測定精度	±0.3%	±1%	±1%
分解能	1cm	1cm	1cm/2cm
設置範囲	2~60m	1~60m	1~60m
観測期間	約45日 20分/2時間観測 標準メモリー 8Mバイト・0.5secサンプリング		
サンプリング期間	0.1、0.2、0.5、1.0秒		
観測時間	1~100分 (1分間隔で設定)		
観測間隔	2~999分 (1分間隔、待合最長時間1ヶ月)		
時計精度	±30秒/月		
時刻合わせ	キースイッチで設定		
データ記憶方式	ICメモリーカセットに時刻とともに収録		
記憶容量	1M、2M、4M、8M、16Mバイト (標準で8Mバイトを実装)		
データ保持期間	5年 (バックアップ電池内蔵)		
電源	シール電池12AH・3個 / リチウム電池30AH・3個 実装		
外形寸法・重量	φ384・H 607mm、約26kg		



●本カタログの記載事項は性能向上のため、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

■ データ処理ソフト一覧

- メモリカセットの自己検査プログラム・・・・・・・・標準装備
- 観測データのダンプ及びフロッピーディスクへの変換・・・標準装備
- 波高データ、平均波法の処理プログラム・・・・・・・・オプション
- 波高データ、スペクトル解析プログラム・・・・・・・・オプション
- 流向・流速データ演算処理プログラム・・・・・・・・オプション
- 卓越波向演算処理プログラム・・・・・・・・オプション
- X・Y成分流速の演算処理プログラム・・・・・・・・オプション
- 各種データのアナログ波形表示及び出力処理・・・・・・・オプション

